

事業名

**豊かな心を育む安全で美しいまちづくり**

目標

**子どもも大人も生き生きできる地域活動を創造する****1. 取組の視点**

校区には、阪奈道路・第二阪奈道路が通り、危険箇所が多くある。不審者対応も含め、安全指導や見守り活動がPTA・育友会、青色パトロール・地域のボランティア団体などで熱心に行われている。各校園では、PTAと連携した清掃活動や除草作業、図書室の環境整備など環境美化活動も活発に行われている。

また、各校園で確かな学力をつけ、豊かな心を育む取組として、本の読み聞かせやしいたけや米の栽培等、地域の特色を生かした地域人材を活用した取組も進められている。

これらの地域の現状をふまえ、一層地域と密着し、子どもも大人もより生き生きと活動できる「豊かな心を育み安全で美しいまちづくり」の取組を創造した。

**2. 取組の概要**

環境美化活動は、各校園を中心にして行われたが、今年度からはPTA・育友会だけでなく、自治会に協力を呼びかけ、地域と連携した活動になった校園もあり、少し地域との連携が進んだ。



地域の方から、「国際化の中で生き抜く力をつけるために英語教育に力を入れてはどうか」という意見があり、本校区では「ハローキッズイングリッシュ」

」に取り組んでいる幼稚園もあり、小学校のハローイングリッシュともあわせ、地域教育協議会で検討し、「英語アシスタント事業」を立ち上げた。

今年度は、天理大学の留学生をアシスタントとし、中学校で授業補助にあたった。来年度からは、各校



園の年間計画に合わせ、校区内の幼稚園や小学校にも活動を広げられたらと考えている。

各校園では、地域人材を活用した取組が進んでいるが、地域全体として人材の募集や集約を行っていないので、今年は、「ボランティア募集チラシ」を作成し、配布・回覧を行うとともに、公民館や商店などに掲示を依頼した。

**3. 成果と課題**

今年度は、地域との連携も自治会等の協力を得て、一定の進展をみせたが、事業の計画が遅かったので、年間を見通した地域全体としての計画にはならなかった。

来年度は「ボランティア募集チラシ」によりボランティアの登録も進むと考えられるので、地域全体として、より有効な人材活用を進めていくために、コーディネーターの役割を明確にし、コーディネーターの活動を組織化していくことも必要である。また、公民館等の地域関係機関との連携を進めていくことも必要である。

事業名

**みんなが一番星！夢と誇りの持てる富南創造**

目標

**一人一人が輝き、生き生きできる学校行事・生活の創造****1. 取組の視点**

本校は家庭の教育力も高く、授業に真面目に取り組む、部活動も熱心で、あいさつの声も大きく、礼儀正しい生徒が多い。しかし、自主的・意欲的に活動するまでには至っておらず、コミュニケーション力の不足から、人間関係づくりがうまくいかない生徒もいる。また、幼児期から遊び等の体験不足によるものか、少したくましさに欠ける感がある。

これらのことから、「自分たちで力を合わせて学校行事を創りあげ、達成感を感じる中で、自信を持ち、一人一人が輝いてくれること」「様々な人とのふれあいを通じた体験学習を充実させることによりコミュニケーション力とたくましさを身につけること」「挨拶をはじめとした社会に出たときに必要なマナーや規範意識を身につけること」を取組の視点とした。

**2. 取組の概要**

今年は、30周年ということもあり、自分たちで生徒会活動や学校行事を創りあげ、達成感が持てる取組として、「エンブレム」の作成に取り組んだ。また保護者・地域の方も招いて、実行委員の生徒が運営し、奈良県文化会館で文化発表会・合唱コンクールを行った。



生徒会は、以前から生徒会主催で校内ボランティア清掃を実施しているが、今年は年間6回のボランティア清掃を行い地域へのお礼の意味も込め、

学校周辺の溝掃除や落ち葉拾いなども行った。



体験等を重視した活動としては、1年では世界遺産学習・福祉体験学習、2年ではマナー講習会・職場体験・性教育やひめゆり学徒隊の方を招いての講演会、3年では性教育講演会をPTAと連携して行った。

伝統文化にふれる取組として琴・尺八の体験講座、ゆかた教室なども行った。地域との連携として、吹奏楽部が、老人福祉施設へのクリスマス会に参加した。

校区内幼小中学校の連携としては、小学校への教員の学校訪問、生徒会が主催した小学生の体験入学等を行った。

**3. 成果と課題**

今年度は、文化発表会・体育大会などで生徒たちが生き生きと活動できたことや、さまざまな体験学習が行えたことはよかった。また、環境美化活動など、PTA・地域と連携した取組などが少し進んだのはよかった。

しかし、今年初めての事業であったので、年度当初からの計画ではなく、今までの取組にプラスしていく形になった。来年度は、生徒会を中心にして、年間を見通した計画を立てていくことが必要である。



事業名

**いきいきわくわく富南タイム**

目 標

**『人とふれあい地域とつながる』をコンセプトに地域環境を生かした体験重視と、読書を通じた情操力の向上を目指す****1. 取組の視点**

地域環境を生かした学習に取り組むことが、地域社会や地域の人々と積極的に関わり、地域を愛する心の醸成に繋がると考えた。そして、体験重視の教育活動が、学ぶ楽しさを実感させ主体的に課題を見つけ、考えを追求していく児童の育成に結びつくと考えた。

また、心を癒し・心を耕す一つの取り組みとして「読書活動」を設定した。「読書活動」では、外部ボランティアの支援を得ながら取り組んできた実践は、地域の人と児童のふれあいを高め、地域と学校の繋がりを強くする大切な取り組みだと考えた。

**2. 取組の概要**

豊かな自然の保護や地域の産業の隆盛は校区の方々が願うところであり、その思いは本校区に



住む児童に感じ取らせたいことである。そこで、地域に目を向けた体験学習（チャレンジタイム）を取り入れ、自ら体験することで地域を大切に思う人々の気持ちを知り、自分の住む町を大切にす気持ちを持たせたいと考えた。3年生では、地域のシイタケ栽培農家の方の協力をいただき、シイタケの原木の穴あけや植菌を体験し、長い期間を通して世話をしている。4年生では3年生から継続してシイタケの世話をしたり、梅の実の生か

し方を梅農家の方から学んだりした。また、車椅子を使つての学習など多くの体験活動を行った。5年生では農家と近大農学部との支援を得て、稲刈



りの作業を体験した。収穫したお米でおにぎりを作り収穫の喜びを感じる学習となった。また、ファンタジータイムと名づけた読書活動では、毎週木曜日に保護者ボランティアによる読み聞かせ、学期ごとに「野の花ぶんこ」の方の読み聞かせを行った。児童は物語の世界に引き込まれ、豊かな人間性を育むことができた。また、新しい本を購入し学年図書の実にも取り組んだ。

**3. 成果と課題**

地域環境を生かした体験重視の活動により、地域の産業・人々の知恵や温かさを実感し楽しく学び主体的な学習の姿勢が身についた。また、学年図書の充実とボランティアによる本の読み聞かせは、読書意欲の向上と感性豊かな児童の育成に結びつき、多くの人たちとふれあえる教育活動の素晴らしさが実感できた。

従来の活動を大切にしながらも新しい取り組みを入れることを課題として、更に多くの人々の協力を得ながら、児童が育ち地域も更に高まるような教育活動へのアプローチを続けたい。

事業名

**未来に向かって たくましく翔く碓っ子**

目標

**本校の教育目標「未来に向かって 生きる力をはぐくむ」にせまるため、学校教育環境の充実を図る****1. 取組の視点**

昨年度は創立30周年にあたり、記念事業を実施するとともに本校教育のあゆみと成果を整理したが、「教育環境の充実」が今後の教育推進の視点として明らかになってきた。そこで、今年度は学校教育目標「未来に向かって生きる力の育成」にせまるために、学校教育環境を見つめ直し、これまでの成果を踏襲していくとともに、「本物に出会う感動」「『人』とふれあうよさ」を取組の視点として本事業に取り組むことにした。

**2. 取組の概要**

大型空気砲を使って、  
空気の動きを確かめました。

**◎本物に出会う感動を**

風を送ると逆方向に走り出す2台の風力模型自動車や空気の動きを確かめる大型空気砲等の演示実験「科学イベントショー」を開催した。子どもたちは自然のおもしろさに気づき、

○実際に実験を見て調べた方がよく分かったし、細かいところも発見できて楽しかった。

○当たり前のように分か

っていなかったことや初めて知ったことなどがあり、理科が好きになった。

と理科・科学への好奇心が高まった。

また、手回し発電機等を使用して楽しみながら実施したコンデンサへの蓄電実験では、新学習指導要領を踏まえた学習機会とすることができた。

**◎「人」とふれあうよさを**

教材・教具を充実させて取り組んだ「全校音楽会」「全校オリエンテーリング」「みつがらす展」等、本校の特色ある学校行事においては、異年齢集団を形成したり、他学年のお友だちとメッセージを交換したりして、「人」とふれあうことによるよさを体感することによって成果をあげた。



また、地域の人たちも参加してくださっている図書室ボランティアには、読み聞かせや図書室整備において活躍していただいた。増加させた学習資料を有効活用させるために、受け入れ作業等に尽力いただいた結果、本校の研究主題「豊かな心を持ち、互いに高め合う子の育成」の具現化に功を奏することとなった。

**3. 成果と課題**

「科学イベントショー」は、子どもたちの理科・科学への好奇心を高めるに効果絶大であった。また、参加いただいた地域の方からも「身近な事象から『考える力』を養うよい機会になった。」との評価をいただいた。

また、先進的な教材・教具を購入し活用したことにより、集団学習の効果を高め、かつ、一人ひとりの学習を充実させることができた。

今後は、子どもたちが高めた理科・科学への好奇心を知的探究心に発展させていくことを取組の視点に加え、さらに教育環境の充実に努めていきたい。

事業名

## ぐんぐん伸びよう笑顔いっぱいタイム

目標

園内の環境に主体的に関わったり様々な人との運動遊びを通して、3歳児からの豊かな心の育成や基礎体力の向上を目指す

### 1. 取組の視点

子どもの体力低下が懸念される中、本園児においても日常生活の中で体を動かして遊ぶ経験が少ないことや、毎日の登降園も車や自転車での送迎が目立ち、歩く経験が少ないなどの状況がある。また、生活リズムの定着や遊びや活動に対する意欲には個人差が大きい。

そこで、幼児期にこそ生きる力につながる基礎体力の構築や主体的に活動に取り組もうとする意欲や態度を育てることが必要であると考えた。本園は「認定こども園」として、0歳児からの継続的な子育て支援や3歳児からの教育が実施できていることから、多くの異年齢の友だちや、親子での活動を楽しみながら、主体的に環境に関わり、「体を動かすことが大好きな子ども」を育てるための取組を進めることにした。

### 2. 取組の概要

(1) 幼児が関わって遊びたくなる環境の整備。

〔園庭遊具のペンキ塗り・運動遊具の補充〕

幼児が戸外に出て遊ぶことを楽しいと感じるために、普段見慣れている固定遊具等を塗るかえることにした。保護者や地域のボランティアの協力を得、5歳児も一緒に活動に参加した。きれいになった遊具に喜び、挑戦しようとする姿が多く見られるようになった。また、運動遊具を購入し自由に使えるようにしたことで、少しの時間でも友だちと一緒に活用しながら楽しく遊ぶ姿が見られた。



(2) 保護者や地域に体力づくりの大切さを啓発する取組。

〔親子での「ふれあい運動遊び」〕

園児だけでなく、1～3歳の未就園児にも呼びかけ、講師を招いて親子でふれあい遊びを実施した。購入したバランスボールを活用したり、身近な道具を使ったりして体を動かす遊びを楽しんだ。家庭でもできることから保護者にも大変参考になり、教員にとっても今後の保育に生かせるものとなった。



〔保護者の自由参観・自由参加〕

期間を決めて、プール遊びやかけ足、縄遊びなどの様子を参観・参加してもらうようにした。友達や教師と元気いっぱい活動する幼児の様子を見てもらうことで、子ども理解と共に体作りに向けた日常的な取組を知ってもらうことができた。

### 3. 成果と課題

環境整備をしたことで、以前にも増して幼児の遊びへの意欲が増し、そのことが体力づくりにつながっていった。今後も園内の環境を見直し、子どもにとっての魅力ある環境作りに努める必要がある。

親子での活動は、相互が愛情を実感できる機会であった。楽しい体験を通して体作りの大切さを感じてもらえたことから、今後も家庭での生活についていく取組を工夫したい。

幼児の体力づくりに向けた取組として、生活習慣の定着や食育の取組など視野を広げた内容の工夫も大切である。



事業名

**碓っ子 ワクワクだいさくせん**

目 標

**幼児が様々な人やものとふれあう中で、豊かな心ややる気を育み健康で安全に生活する力を身につける****1. 取組の視点**

幼児が豊かな心を持ち、生き生きとたくましく生活する力を育むために、身近な人々とのふれあいや、様々な直接体験を重視する取り組みを実施した。また、地域の方々や保護者の協力を仰ぎ、園内環境美化運動や読書環境の充実に力をそそいだ。

**2. 取組の概要**

地域の人々とのふれあいを深めるために年間を通して、様々な年代の方と触れ合えるように計画した。たとえば、西千代ヶ丘・三碓の高齢者の方や中学生との触れ合いの場では、遊びを教してもらったり一緒に遊ぶことにより、親しみが増し積極的にかかわる姿がみられた。未就園児との交流では、やさしくかわり思いやりの姿がみられた。

地域の方を講師に招いて実施した書初めやお茶会では、礼儀作法を学び、日本の伝統文化や行事を知り関心をもって楽しむことができた。

地域へ出かけ、四季折々の自然に触れ、感動体験を積み重ねることで感性を磨くことができた。

地域の方々と出会った時に、あいさつや

言葉をかかわすことで自分の住んでいる町の様子に興味をもつことにつながった。

親子の触れ合いでは、保育参観・保育参加や絵本の貸し出し等の活動内容を工夫した。日曜参観では、親子で制作したもので遊び、触れ合う楽し

さを味わうことができた。また、親子栽培、花苗植えを一緒にしたことで、親子で生長を楽しむ姿や会話を楽しむ姿等が見られた。

また、保護者へ子育て支援のための教育講演会（講師招聘）等を実施したことにより、幼児理解や幼稚園教育への啓発に繋がった。

野の花ぶんこ・人形劇団ゴロゴロ・民話を語る会等の方による読み聞かせや読書環境を整えたことで、いろいろな話に触れる機会が増え、絵本に対して以前にも増して関心をもつようになった。園内環境整備のために、保護者の方（特に男性の参加が多く）が多数協力していただき、準備していた道具がフル活用された。

**3. 成果と課題**

地域の方々の協力のもと、幼児達はいろいろな感動体験や様々な人とのふれあいの中で生きる力の基礎を培うことができた。そして、人やものとのふれあいで、幼児が心を動かされるような直接体験をすることの大切さを再認識した。また、豊かな心を育む基盤となる美しい環境の大切さ、先を見通した計画立案の重要性も実感した。

今後、地域の教育力をさらに生かし、環境や活動の見直し、再検討、実施を考えていきたい。また、豊かな感動体験や家庭・地域との連携の工夫をさらに考えていきたい。

